

## 2017年度 ドコモ市民活動団体助成事業 中間報告書

記入日: 2018年4月5日

活動名	社会的養護が必要な少年の 再非行防止サポート強化事業	団体名称	NPO法人再非行防止サポートセンター愛知
		活動テーマ	子どもの健全な育成を支援する活動
		活動の目的	③非行や犯罪から子どもの立ち直りを支援する活動
■申請書の活動概要<150~200字>		■申請書のスケジュール	■各スケジュールごとの活動内容
愛知県内の少年院入所中の少年を対象に、生活環境調査を行った結果、「戻る家庭がない」「家庭に戻せない」「家庭で受入れ拒否」の社会的養護が必要と判断された少年に対して、出院後には当法人が運営する「自立準備ホーム」に受入れ、「少年院面会」と出院後の「再非行防止サポート」と「社会自立に向けた支援」の強化を行い地域社会の中で自立できる青少年が増えている社会づくりを行う。		①少年院面会 2017.09~12 ②ホーム環境整備 2017.10~2018.07 ③交流会 2017.10~2018.07 ④食事提供・面談 2017.10~2018.07	①少年院面会 少年との関係づくり、出院後の就労等希望調査 ②ホーム環境整備 円滑な社会生活ができるための環境整備 ③交流会 本音と希望の確認、進路の青写真を描く個別支援 ④食事提供、面談 規則正しい生活を送る、ひとり暮らしに慣れる
■活動目標	社会的養護が必要と判断された少年院出院後の少年が再非行なく社会自立にいたる環境づくり		
■長期成果	「再非行防止サポートプラン」を保護者から援助のないホームに暮らす少年たちにも適用し、「再非行防止」と「社会的自立」にいたるための支援体制の強化することで、再非行少年率の上昇への是正。		
■活動風景			
			
<ホームでの誕生日会(交流会)>		<ホームの環境整備>	<手作りのご飯>
■上期の成果と下半期に向けた改善点		■実施体制	
<b>■上半期の成果と下半期に向けた改善点</b> ・ホーム入居:10月:2名、11月:2名、12月:1名、1月:1名 計6名の保護観察中の少年を受入れることが出来た。 ・ホームの環境整備:未成年で自分では契約できない少年には連絡用携帯貸出や、助成金を活用し、布団、タオル等を準備することにより、保護者から援助が受けられない少年に対して、円滑な社会生活のスタートが可能となる取り組みを実施した。 ・専門家(精神保健福祉士、臨床心理士、障がい福祉専門家等)との連携体制もようやく固まり、定期的にカウンセリングなど、就労支援スタッフや役員等と協議を重ねた支援方法の統一を目的とした新たな支援体制を構築した。 ・措置終了後、自活をせざるを得ない障がいを持った少年について、「障がい認知度」を高める取り組みや、障がい福祉の専門家などの面談を行った。 ・食事提供:少年の食べたいものをリクエストしてもらい、食べ残しが多い少年には、スタッフが一緒に食べるなどの工夫をし、孤食や偏食を減らす取り組みを行った。 ・面談:希望時間に起きてこない少年についてはインターホンも鳴らしても起きてこない場合は、合鍵で入っても良いと事前に了承を取り付け、実践する事となった。		<b>■実施体制</b> ①少年院面会~出院まで 非行経験者と非行に関係ないスタッフと2名でチームを組む。 ②ホームの環境整備 ・一日一度の面談にて、親代わりの寄り添い支援を実施。 ・lineグループを活用し、問題発覚後もすぐ対応できる体制づくり。 ③交流会 食事を兼ねた交流会での小さい気づきを、スタッフ間で共有するためのLINEグループを作成。スタッフ全員で背中を押す環境づくりを行った。 ④食事提供・面談 毎日の面談を担当が報告書を作成。メーリングリストで共有しサポートに役立てている。	
〒 463-0021 (住所)愛知県名古屋守山区大森2丁目2302番地 (団体名)NPO法人再非行防止サポートセンター愛知 (ホームページ):http://saisapo.org/			助成金額 500,000円
			助成期間 H29.9.1~H30.8.31

※長期成果とは、活動目標に向かって継続的な事業を進める中で将来得られる活動成果とします。